一般質問

輸入農産物に対抗できる研究会の設置は

西高悟議員

輸入農産物の増加により農家経営が圧迫されてきており、畑かん営農確立や安心・安全な農産物の生産、また就農促進等へも大きな支障をきたす状況にある。将来の農地保全のためにも、大崎町技術員連絡協議会（技連会）で、生産から販売について、情報提供や提案のできる国や県の事業等も活かした活発な活動のできる会の設置はできないか。

技連会の積極的な活動を

町長　技連会は任意の団体であり、会長は農政課長が努め運営されている。技連会も規約改正をし、委員会が新しく組織化され各部会で対策検討をし、十月末までにまとめあげ委員会で検討するようである。

技連会の活動なくして町の農業振興は図れない。本町の農業振興策について今後も積極的に取り組むようお願いしたい。

あすぱる大崎で町内産の黒牛・黒豚等の活用は

西高議員　あすぱる大崎には物産館もあり、これを町内外にアピールすることも含めて、町外のお客や観光バスのツアー客をひきつけるようなメニュー設定を町内の黒毛和牛や黒豚を使ってできないものか。これにより、町内の特産品や農産物もよく売れて地産地消運動と共に県外にも大崎産のアピールができるのではないか。

取り組んでいく

町長　町内外から多数の人々が訪れる施設で、黒牛、黒豚、ブロイラーをはじめ海産物や野菜類を特産物として献立の食材を販売することは、大崎町をピーアールするための大きな媒体である。これらの農産物を「あすぱる大崎」や「あすぱる物産館」で活用するために熱心に取り組んでいく。

あすぱる物産館

物産館のピーアールは

西高議員　大崎町の広報誌を活かした地産地消運動を含めた物産館のピーアールはできないか。

努力していく

町長　安全な食品として生産者の顔が見える農産物の販売は大事であり、今後、会合等でもピーアールしながら努力していく。

農業公社の設立時期は

西高議員　農業公社に関するプロジェクトチームが設立されたが、現状はどうか。また、新規就農者育成のために農業公社の早い設立を願っているが、いつ頃か。

平成十五年度までに

町長　アグリプロジェクトとしては、十月末を目標に報告書を作成する予定である。

農業公社については、十四年度内にまとめあげ、十五年度に立ち上げたいと思っている。

新規就農者支援事業の活用を

西高議員　新規就農者支援事業を活かした、町内にあるどの作物にも研修のできる農業公社の設立を強く要望する。

活かしていきたい

町長　新規就農者支援事業については、いい事業なので活用していきたい。